



遊びの中で発見する！

子どもは遊びの中で得た感覚を通して自分の中に湧いてくる「何か」を感じ取るという作業を行っています。

それは「ああしてこうしたら面白いのではないか」というものもあれば、瞬間行ったことが感覚的に気持ちが良いことだったと言うこともあるかもしれません。

そのいろいろな感覚と会話をすることによって自分の気持ちに気づく作業を無意識に行っています。

それが起きていることを知る手がかりになるのが「表情」です。子どもの表情が動く時、それはとてつもなく「気持ちが動いた瞬間」です。なので表情を見ることは、子どもの気持ちを感じ取る手がかりになります。また、その中で外に発したいことが出て来ると「これってこうなんだよ！」などの説明するという行動が起きてきます。

子どもが遊びの中で話しかけてきた時、それに対して反応を返す。それに対してまた子どもから返ってくる。そのような交流をしていく中で、みなさんもよくご存じのことだと思いますが、子どもへの理解を深めることができます。

それと同時に子どもの気持ちを感じ取る中で、たとえばこういうの嫌だなあとか好きだなあと思った時に「なぜ自分がそう感じるのか」「自分の中にどういう部分があるからそう感じるのか」を考えることによってご自身の感じ方についての理解を深めることにもなるのです。

そうして自分自身の感じ方を知ることで、子どもとより一層うまく付き合っていく方法が発見できると思います。



☎電話して つながるきずな 広がる支援☎

月・水・木・金・日 9:00～18:00

児童虐待・DV・子育て・子育て不安などの悩みを皆様と一緒に考えていくところです
☆相談は、無料です。相談についての秘密は厳守いたします
☆ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください
☆相談事業 電話相談・来所相談・訪問相談・心理カウンセリングなど
☆子どもからの相談をお受けします

松戸市根木内145 TEL 047-340-1151・1153



オリーブの実



2013. 秋号

松戸市根木内145

TEL 047-340-1151・1153

発行 児童家庭支援センター オリーブ

灼熱の陽射しをうけて咲くサルズベリは花が少ない夏には心地よさを感じます。幼い頃すべすべした木肌を見てこれが「猿すべり」と知った時に、そのネーミングの面白さに感激した記憶があります。比較的長い期間赤い花が咲いていることから百日紅（ヒャクジツコウ）とも呼ばれています。実際は「散れば咲き 散れば咲きして 百日紅」と加賀千代女が詠ったように、咲いた花が一度は散り枝先からまた目が出て花をつけるので百日間咲いているように見えるのだそうです。見方の視点が変わることでこんなにも名前印象も変わるのですね。

さて、児童家庭支援センターオリーブが開設し、9月2日で3年が経過いたしました。皆様のご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。設立年度の第一回地域講座のシンポジウムで、「共にあゆむ」「見守る」「繋げる」を目指すオリーブ像の三本柱に地域の相談業務を行っていくことをお伝えいたしました。

4年目を迎えるにあたり、改めて初心に帰り、振り返ってみます。

*共にあゆむ

大きな問題に直面して足を前に出せずに佇んでいる時に意を決してご相談して下さったことと思います。そんな時一緒に歩み解決のお手伝いをしたいと考えております。その中には制度上行政の枠ではできない支援もあるでしょうが、オリーブでは行政の隙間を埋める作業を行ってまいります。

*見守る

人と人との関わりでは、共に歩むことよりは、時によってはいつも気かけながら遠くから見守っていくことも必要ではないでしょうか。自分は「一人ではない」だれかが見守ってくれているという気持ちは、人を強くすると信じています。

*繋げる

連携というのは複数の関係機関が守備範囲に留まることなく、共有した情報をもとにそれぞれの専門性を発揮して繋がっていくことと考えます。地域の連携の環を強め皆であゆみ寄ることで、子どもや家族が安心して過ごせる地域づくりに努めてまいります。

スタッフ一同これからも自己研鑽に励んでまいりますので宜しくお願い申し上げます。

最後にご案内です。児童養護施設晴香園では小規模グループホームの新ホームが完成しました。この建物の1階には、世界一小さな図書館のあるCafé 赤い花 白い花が9月3日にオープンいたしました。すべてのこどものフェアスタートを願って当店では利益の一部を子どもの成長支援に使用します。コーヒー一杯で社会貢献ができます。一人でのんびりしたい、友だちとじっくり話をしたい、親子づれの仲間と集みたい等、その時の気分でお気軽にお立ち寄りください。授乳室・ベッドも完備しています。9月28日（土）にはオリーブの第4回地域講座として「葦牙」の上映会と監督のトークを企画しております。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

あし かび

第4回地域講座「葦牙」小池征人監督

こどもが招く未来

「葦牙（あしかび）」とは葦の若芽のこと、冬の厳しさを超え春になると水辺の葦が芽吹き新芽を出します。その生命力の強さは古事記に「葦牙の如く萌え騰れる（あしかびのごとくもえあがれる）」と詠われているほどです。

映画の舞台は、岩手県盛岡市郊外にある児童養護施設「みちのくみどり学園」で、監督やスタッフが4ヵ月間こども達と寝食を共にして撮影しました。岩手県の麓に位置し雄大な自然に囲まれた場所にある学園は、昭和32年虚弱児施設として創設され、平成10年児童養護施設に移行されました。奥羽山脈の豊かな自然と、学園の職員や地域の人々の温かい心に囲まれて和太鼓演奏やこけし作りなどを通して生きる姿をカメラは淡々と追っています。

息づく葦のごとく、力強く生きている子どもたちの姿をご覧ください。

[監督紹介]

1944年、満州生まれ

1967年、中央大学法学部卒業。東京大学新聞研究所に三年所属、日高六郎氏に師事。その後、土本典昭監督の下で助監督として記録映画作りを学ぶ。

「葦牙」上映会と小池監督を囲んでのトーク会

日時 平成25年9月28日（土） 12:30 開場
13:00 開演

会場 「Café 赤い花 白い花」
松戸市根木内145番地 晴香園園内
*駐車場16台分あります。

定員 70名（先着順・要予約）

チケット 1,000円（小池監督のトーク/コーヒーor紅茶付）

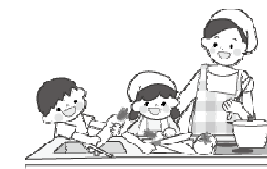
申込 児童家庭支援センター オリーブ

☎047-340-1151・1153



子どもと囲む食卓

—乳幼児期—



今年の夏は例年にない猛暑でした。あまりの暑さに食欲を失くし、体調を崩された方も多いのではないのでしょうか？「食べる」ということは人が生きていく上でとても大切なことですね。

食事は家族の身体を思い栄養や体調・好みを考えて献立を決めることから始まります。子どもと一緒に買い物に行ったり・野菜を洗ったり・箸や茶碗を並べたり・お話しをしながら食卓を囲み後片付けをする…。そんな何気ない日々の積み重ねが親子の関係を深めていきます。

でも食事中はおだやかなことばかりではありませんね。小さな子どもであれば手づかみはするし、汁物におかずを混ぜてみたり、ちょっと自分の食事をするために目を離せば、あっという間に頭からつま先までごはんだらけ…なんてこともしょっちゅう。

そんな時、どうか食事の時間を叱ることだけで終わらせないでください。片づけに思わずため息をつきたくなくても、子どもにとっては「自分で食べられた」という自信に繋がります。自分から「やりたい！やってみよう」と思って行動できたことは素晴らしいことです。また、それを感じ取ることができた大人も素敵ですね。

この時期は何よりも、楽しく食べるということが一番です。笑顔あふれる食卓こそ、幼い子どもにとっては、何よりの栄養なのかもしれません。そして子どもの笑顔は親の励みになり、子どもとの関わりを育んでいくのでしょう。

忙しい毎日、時にはイライラしたまま終わってしまう食事の時間もあるでしょう。しかし食事は、家族の絆を作る一つの手段です。お腹だけでなく、こころも満たされる、そんな食卓づくりを心掛けたいですね。

さあ、今日は何を作ろうかな
どんな話が聞けるかな…



平成24年度収支決算報告書		
収入	県補助金収入	9,263,000
	その他の収入	166,373
	合計	9,429,373
支出	人件費	8,118,654
	事務費	1,305,426
	固定資産取得支出	362,250
合計		9,786,330
収支差額		356,957

平成25年度資金収支予算額		
収入	県補助金収入	9,263,000
	その他の収入	412,000
	合計	9,675,000
支出	人件費	8,643,000
	事務費	1,032,000
合計		9,675,000